

可愛地区振興会との対話集会

場 所：可愛振興センター
開催日：2025年2月9日
参加者：55名



<テーマ>
市政懇談会

<主な内容>
(1) 確認コールボタンの設置について

過疎高齢化が進む中で、独居老人が増え、亡くなられてから日にちが過ぎて発見されるなど痛ましいことがあります。そこで、例えばお太助フォンに確認コールボタンを設け、独居の方には1日1回そのボタンを押してもらい、安否を確認できるシステムを設けることはできないでしょうか。（高齢者に限らず一人暮らしの若い人も含める。）プライバシー的なことでもあり、強制ではなく登録制にすれば、不安を感じている人は安心して暮らせるのではないのでしょうか。

【市長コメント】

独居高齢者が増加する中、当市でも安否確認等の課題が大きくなっています。可愛地区振興会におかれましては、地域の方や民生委員、老人クラブでの見守り等、人と人とのつながりの中で、積極的に見守り活動に取り組んでいただいているものと承知しています。現在、インターネットを利用した見守り家電や、民間の緊急通報サービスなど、民間サービスでは多彩な見守りの手段が展開されています。

ご質問の、確認コールボタンについても、選択できる通信手段の一つであります。これらの選択肢の中から、時代に即した効率的な手法を検討する必要があります。また、通信手段を整備しても、支える側、支援する側はあくまでも人の手によるものとなります。

今後、支える側の人口が益々減少する中で、市としましても、高齢者のみならず、障害のある方や子育て世帯の方についても支えていける体制を構築するため、社会福祉協議会など関係機関との連携を強化し、地域共生社会の実現に向けて取り組んでまいります。

(2) 資源物回収事業の再開について

地域で資源物回収を長年続けてきましたが、市の補助金が打ち切りとなり、業者が現地まで引き取りに来てくれなくなった。自分たちで運んで持ち込むのもなかなか難しいため、回収活動を止めざるを得ない状況である。高齢化に伴い車の運転が出来ない人も増えつつあるので、現地まで引き取りに来ていただけるように業者への補助金の交付を復活するなどして、地域の回収活動をバックアップしてもらいたい。

【市長コメント】

本年度の資源物回収補助金は、減額や廃止することなく280万円を予算化し、引き続き地域で資源物回収を行う団体に対して交付を行っています。

市内の資源物回収事業者が独自で取り組まれていた資源物の個別引き取りについては、回収事業者のドライバー人材の不足により、昨年3月末で個別回収については中止されました。

一方で、昨年4月以降、吉田町多治比地区、美土里町、高宮町、向原町においては、資源物回収拠点の各所1か所への集約化が進んだことから、資源物回収事業者による資源物回収が再開となっている状況です。

昨年11月には、地元の資源物回収事業者がこの可愛地区竹原にリサイクル施設を新設されました。各自の持ち込みによる回収とのことですが、資源物回収が進み、資源として生まれ変わることを期待しているところです。

(3) 田んぼアートのその後の計画について

【市長コメント】

公園に特化したかたちで整備を考えています。かなりの広さを有する市有地ですので、今後の安芸高田市にとって必要な機能を戦略的に配置できるよう、今年中に方向をお示しできるようにしていきたいと考えています。

(4) 少子高齢化に伴い市としての今後の短期、長期ビジョンについて

【市長コメント】

安芸高田市のような中山間地域では、都市部よりずっと早く進んでいくと言われています。このような状況の中では、市の運営もスリム化を進めていかなければ行き詰ってしまいます。その代表的なものは公共施設ですが、利用状況や利用見込み、老朽度なども踏まえて、当面の公共施設の廃止スケジュールを既にお示ししています。市の現状としては、今後迎える更なる人口減少への対応がまだまだできていないと捉えており、スリム化への対応が喫緊の課題と考えています。

一方で、スリム化で生まれる余力は、今後も守っていくべき部分に投下し、安芸高田市が安芸高田市らしくあり続けるように、子どもたちにとって住みたいまちになるようにしなければなりません。

現在、「第3次安芸高田市総合計画」の策定を進めており、20年後を見据えた基本構想をまとめようとしています。ここでは、20年後の安芸高田市に残していくべきものは何か、20年後にこのまちの主人公になっている子どもたちが「あってほしい」と望むことは何かということを主眼においてまとめていきたいと考えています。

基本構想は、夏までにはある程度まとまった形でお示しすることができますので、その際にはぜひご意見などいただきたいと思います。

(5) お太助フォンについて

現在、お太助フォンが老朽化して利用する価値が少なくなってきました。現在の光ケーブルを利用して端末を新しくして市民により使いやすいものに出来ないでしょうか？主に緊急放送、おくやみ放送を聞いています。

【市長コメント】

安芸高田市内全域に行政情報や災害時の緊急情報を届けるために整備した「お太助フォン」が、整備から10年が経過し、端末の更新が必要な時期を迎えています。これに伴い、昨年末に市民の皆さんへの利用状況アンケートを実施しました。
今回のアンケートによって、市民の皆さんがどのように行政情報を得ているか、どのようにお太助フォンを使っているか回答いただき、現在集計作業をしているところです。
この集計結果をもとに、行政情報の伝達手段として、どのような機能が必要か判断し、2025年から2026年にかけて必要な整備を進めていきたいと考えています。

(6) お太助ワゴンについて

お太助ワゴンが使いにくいので使用方法を見直してみてもどうかと思います。例えば定期便を走らせる、運行時間の見直し、目的地まで寄り道せずに行くようにする。乗り降りしやすい軽自動車も導入してみるなど検討して頂きたいと思います。

【市長コメント】

お太助ワゴンは、通勤通学による利用者が一定数見込める時間帯以外の時間帯に、いわゆる交通弱者のための交通手段の確保を、できるだけ利用料を抑える形でなんとか実現しているものです。
決まったルートを決まった時間に運行する形にするのではなく、すこし回り道になって時間はかかっても、利用したい皆さんの家をめぐってある程度まとまった人数にすることで、効率的な運行になるように努めています。少し使い勝手の悪いところはあるかもしれませんが、ご理解をいただきたいと思います。
今回いただいたようなご意見については、今後の運行形態の見直しの際に参考にさせていただきますので、これからもお声がけいただきたいと思います。

(7) 山手交差点、市道の陥没について

【建設部長コメント】

現地を確認し対応を検討します。

(8) 子どもが病気になっても診てもらうところがない。若者が住まないということは住みにくいということではないか。

【福祉保健部長コメント】

質問は、小児救急のことだと思います。吉田病院については、人手不足の問題もあり、夜間休日は小児救急はできていません。市としては、来年度看護師不足を補う施策を考えています。

(8) 田んぼアート公園から54号に出るところは道路が狭く、離合できるようにしてほしい

【市長コメント】
公園を整備するなかで検討していきたいと思います。

(9) 中馬財産区に太陽光パネルを設置できないですか？

【総務部長コメント】
貴重な土地ですので有効活用したいと思います。

(10) 少子高齢化対策、企業誘致について

若い人が安芸高田市に来てもらうための施策が必要だと思います。少子化対策・企業誘致についてどう思いますか？

【市長コメント】
少子高齢化対策については、特効薬がない状況です。そのなかで成功している自治体もありますので他市町の事例を参考にしたいと思います。
企業誘致については、組織として体制を整えていく予定です。すぐに取り組みを行って成果が出るものではないかと思います。まずは人間関係を構築するところから進めていきたいと思っています。

(11) 対話集会の在り方について

対話集会に初めて参加したが、まるで議会のようで対話の場になっていないと思う。

【副市長コメント】
今後の対話集会の運営の参考にします。

(12) 安芸高田市は良い所がたくさんあるのにPR不足ではないですか。

【市長コメント】
SNSを活用し、市の魅力を積極的に伝えていきたいと思います。